



「下肢装具」用のおしゃれな靴の開発・販売

Mana'olana

代表 布施田 祥子さん

川口市在住。脚に装着して歩行を支える「下肢装具」を付けていても履くことができるパンプスやビジネスシューズなどを開発。おしゃれな福祉用品・服飾雑貨の開発・企画・販売を行う。

平成29年 SAITAMA Smile Womenピッチ2017「キャリアママ賞」受賞、
「Mana'olana」開業

平成30年 社団法人日本青年会議所事業創造会議主催 地域未来投資コンテスト
内閣総理大臣賞 グランプリ受賞

平成31年 彩の国ベンチャーマーケット埼玉県産業振興公社理事長賞受賞



ユニバーサルな編み物用具の開発・販売

手編みサロンあみ～ちえ

代表 平田 のぶ子さん

さいたま市在住。編み物教室講師であり、手先が不自由な人でも編める「ユニバーサルかぎ針」の開発・販売を行う。

平成27年 「手編みサロン あみ～ちえ」開業、さいたま市ニュービジネス大賞2015「女性起業賞」受賞

平成28年 「ユニバーサルかぎ針」を発売開始



「過去の仕事の経験と編物講師としての知識が起業に活かされました」

趣味から講師となり、
アイデアが生まれ
起業を決意

編み物は小学生の頃から好きで、ずっと親しんできました。結婚と子育てを機にしばらくやらなくなっていました。子どもが大きくなって自分の時間が持てるようになった頃、家族の服も編み物で作れるように本格的に習ってみようと考えました。編物指導者養成学校の講座を受けて資格を取得して、カフェでの委託販売で自分の作品を販売し始めました。

次第に「作り方を習いたい」という問い合わせが増え、カフェで編物講習がスタートしました。実際に私が編み方を教えてみたところ、人に教えることが、私にとってもとても楽しい時間だと実感するようになりました。

ある時、手先が不自由な人に編み物を教えて、元氣を取り戻してくれることがありました。そこで「手が不自由でも誰でも編み物ができる道具があればいいの」というアイデアがひらめきました。既製品の中で、誰でも使いやすい「ユニバーサルなかぎ針」は見当たらなかったで自分で開発してみよう。

よう、小規模なスタートなら自分でもできるかもしれないと考え、起業という方法を選びました。

そんな私に、主人は「絶対これを形にして、世の中に出したほうがいい」と言ってくれました。ちょうどその頃に主人が病気で亡くなってしまったのですが、その言葉を遺言だと思い、編み物の仕事を進めていくことで喪失感から立ち直りました。少々大変なことがあっても、主人の言葉が後押しをしてくれました。

あらゆる窓口へ相談、
ユーザーからの意見を反映

起業当初はゼロからのスタートだったので、利用できるあらゆる窓口へ相談に行きました。さいたま市産業創造財団、埼玉県よろず支援拠点、さいたま商工会議所などに相談させてもらいました。ここで知り合った中小企業診断士の先生には、現在でもよく相談しています。

最初は粘土で作った試作品から始まりました。編物指導者養成学校の先生や、看護師時代の同僚の勤務先のデイサービスの利用

者さんに実際に試作品を使ってもらって意見を頂きました。教室の生徒の方から「こうすれば使いやすい」と教えられることもしばしばあり、私が勉強になることもあります。

起業に年齢は関係ない
やりたいことをやればよい

結婚前に看護師として働いていた経験があったからこそユニバーサルかぎ針の開発に結びつきました。仕事の経験が将来どこで生きるかは案外分からないものです。主人の生前は妻として、母として家庭の中で幸せに生活していましたが、この年になって起業して、誰かの役に立つものを作るということもまた幸せだと思っています。起業には年齢は関係ないですし、やりたいことはやったほうがよい。いろいろな人たちとの出会いのおかげで私もここまで来られたと思いますし、編み物を生きがいと感じて笑顔になれる人を「あみくちえ」で増やしていきたいです。

「障がいに関係なく、おしゃれを自由に楽しめる社会にしたい」

障がいがあっても
大好きな靴でおしゃれを
楽しみたい

靴やおしゃれが10代の頃から大好きで、20代の時には100足近く持っていました。アパレルやジュエリー業界で働きつつ、おしゃれな靴を履くことも楽しんでいたので、平成23年に出産を経験した際、大静脈血栓症と脳内出血を併発して、左手足に麻痺障害が残りました。平成27年には持病の潰瘍性大腸炎が悪化し、大腸を全摘しました。麻痺により、外出時には歩行を補助する「下肢装具」の着用が欠かせなくなりました。脚の機能を補う面では申し分ないのですが、これを装着したまま履ける靴がかなり限定されてしまいます。外出時はサンダルもブーツもパンプスも履けず、二カーか介護用シューズのみで100足近く持っていた靴のうち大半は履けなくなりました。洋服に合った靴を選ぶことをずっと楽しんできたのに、突然その自由を諦めなくてはなりません。

病気から立ち直ってからは、は事務的な仕事をしていたけれど、だんだん「自分にはもっとできることがあるの」と思い始めました。

長年担当してくれているリハビリの先生に相談したら「履ける靴がなくなったのなら、自分で作ってみたら」と言われたのがきっかけで、まずは自分が履くための靴を作ることに決めました。

そうして初めて分かったのが、下肢装具に合った靴が少ないため、多くの方が苦労しているということ。スニーカー以外だと、完全特注品で何十万円以上もかけて靴を作るくらいしかなかったのです。自分も当事者としてこの状況を変えてみようと思い、下肢装具用の靴を商品化するため起業しました。

作るからには
おしゃれに妥協しない

靴を作る経験がなかったのですが、当初は全くの手探りでした。協力していただく靴メーカーさんを探したものの十数軒から断られ、一社だけ応じてくれた会社とサンプルから作り始めました。履くことすらできず失敗した靴がたくさんあります。失敗したサンプルから少しずつ靴作りを学んでいきました。

試作品の靴を持って展示会に出品し、試着してもらって学んだこと

がたくさんありました。試着した人たちからの声を反映してメーカーに依頼し、徐々に改良を重ねていきました。

おしゃれな靴が好きで自分だからこそ妥協できない履き心地、革の固さなどへのこだわりは、今の靴作りにも生かされています。作るからには価値ある靴を作りたいですからね。

起業にあたっての基本的なことは、創業・ベンチャー支援センター埼玉の方に指導を受けています。事業計画などで悩みがあるときは、すぐ相談に伺って、とても頼りにしています。家族は「好きなようにやってみたら」というスタンスで関わってくれています。娘が販売会のボランティアなどに活躍することもあります。

下肢装具用の靴は外出するため、のきかけのついで、そもそもは障がいを抱えている人が前向きに生きる背中を押してあげたい、という気持ちが根底にあります。この仕事を通じて、障がいに関係なく自由に行きたいところに行き、おしゃれができるのが当たり前とされる社会づくりに貢献できればと思います。



普段は共有レンタルオフィスで仕事をしています



～起業で形になったアイデア～ 下肢装具用のパンプス

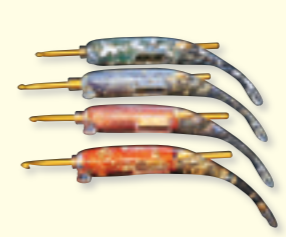
下肢装具が挿入できるよう幅広でありつつも足をスッキリと見せるデザインのパンプスが形になりました。甲をしっかり固定するストラップなど、女性らしいラインと履き心地が両立しています。片手でも着脱可能なので片手が不自由でも履くことができます。



気に入った国内外の靴の写真を集めて、新しく作る靴のデザインの参考にしています



東大宮、与野本町、上尾で編み物教室を開催しています(写真は東大宮)



～起業で形になったアイデア～ ユニバーサルかぎ針《あみ～ちえ》

補助バンドがかぎ針に巻き付いて手と固定されることで、指先の力が弱くても固定できる編み物用のかぎ針が形になりました。人それぞれの持ちやすい位置で固定できるので、高齢や病気で手指が不自由であっても編み物を楽しむことができます。



紙粘土による手製の試作品から試行錯誤と改良を重ねて現在の形状に近づけていきました

起業に関する相談窓口については4ページをご覧ください。